



島田療育センター
院長 木実谷 哲史

地域療育等支援事業 上半期(平成22年度4月~10月)報告

地域連携情報室 松野彩子 山崎 瞳

【外来療育等支援事業～療育相談～】

障害を持つかたご本人あるいはご家族のかたに、当センターにお越しただいてご相談に応じる事業です。上半期は今のところ2件の実施となっています。発達上のご心配や身体機能のご相談について医師、心理、PTなどが応じました。

【施設支援一般指導事業】

地域で暮らす障害のあるかたを受け入れている、通所施設の職員の方のご相談に応じる事業です。実施方法は訪問相談と来所相談の二通りありますが、ほとんどが訪問相談のご希望で、ご相談内容に応じて専門職を地域施設に派遣し、ご助言等をさせていただきます。

全体としては表①のとおりで延べ 73 件を実施しました。昨年度の同時期は 56 件でしたので、件数は増加傾向といえます。利用された施設を種別でみると、最も多いのが保育園、次いで小学校となっています。市別にみると、最も多いのが八王子市、次いで多摩市となっています。

表②は月ごとの件数を昨年度と比較したものです。今期の特徴は、いつもなら利用数が減る 4 月や 8 月にも多かったこと、それに加えて各月の利用数も殆どの月で昨年を上回っていたことです。

表③は職種別に関わった数を表しています。心理職の対応が多くなっており、集団行動の難しさやお友達関係がうまくいかないことなどへのご相談が多いことが伺えます。

【訪問療育等指導事業】

家庭の場での訓練方法、姿勢保持、日常生活介助の工夫などのご相談に、専門職が家庭を訪問して応じる事業ですが、今期は今のところまだご利用がありません。ぜひご活用いただければと思います。

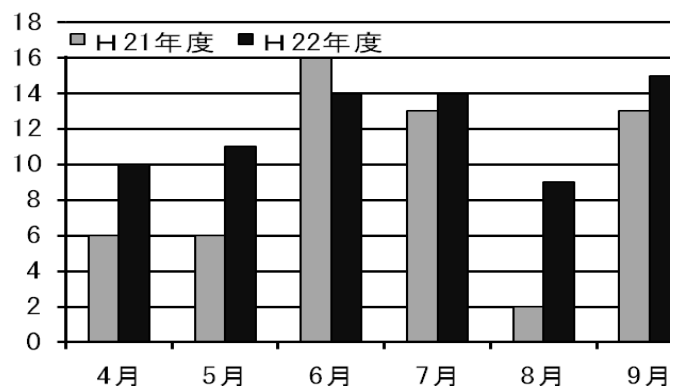
事業のご利用については、本誌第 4 面にご案内がございますので、どうぞご参照ください。

表① 平成 22 年度(上半期) 施設支援事業 全体の実施数

	多摩市		八王子市		町田市		稲城市		日野市		その他		合計	
	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実
特別支援学校	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	2	2	5	5
保育園	12	10	12	10	4	4	2	2	4	3	2	1	36	30
幼稚園	7	4	6	3	0	0	0	0	1	1	0	0	14	8
小学校	5	3	8	6	0	0	2	2	1	1	0	0	16	12
中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
障害児(者)機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
その他(学童含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	24	17	28	21	5	5	4	4	7	6	5	4	73	57

延…延べ実施件数 実…実施施設数

表② 昨年度との比較(月ごとの実施回数)



表③ 平成 22 年度(上半期) 職種別に関わった延べ数

医師	Ns	PT	OT	ST	心理	Co	その他
6	4	7	21	27	41	69	4



家族支援プロジェクト

～田中康雄先生講演会～

～先輩ママの体験談&交流会～

外来療育長 (看護師) 岸野美由紀

家族支援プロジェクトは、子どもたちの療育を円滑にするため、ご家族が元気に過ごせることを願って活動しています。

去る7月12日、児童精神科医の田中康雄先生を北海道大学からお招きし、タイトル「希望ある明日に向かって、子どもたちの育ちを信じよう～親の気持ちに寄り添って～」をご講演いただきました。日曜日でしたが、29組のご家族と多くの関係者が集まりました。子どもたちが抱えている生きにくさ、ご両親や保育、教育現場の先生方がそれぞれ抱えている困りごとや悩みなどの具体的な対応に関するユーモアあふれるお話で、田中先生のご家族を労う暖かい言葉に涙される親御さんも見られました。「元気になった」という感想が多く寄せられ、我々スタッフも、難しいと思っていたことが「何とかかなりそうだ」と感じられる内容でした。田中先生は「わが子の良いところを5つ、すぐ挙げられるようにしよう」と言われます。とても大切なことです。是非、トライしてみてください!

9月26日には、「先輩ママの体験談を聴く会&交流会」を開催しました。発達障害や脳性麻痺などのお子さんをお

持ちの21組のご家族と療育関係者が集まる中、3人の先輩ママが、コミュニケーションに困難を持つお子さんの子育てや、生活の全てに介助が必要なお子さんの子育てとそのきょうだいたちへの思いなどを話してくださいました。診断の時の複雑な心境や葛藤、目まぐるしい生活の切り盛りなど、辛いことも楽しいことも明るく前向きに語る先輩ママの姿に「元気がもらえた」「心強く感じた」という感想が多く寄せられました。

後半の交流会では、同じ悩みを抱えるご家族で4つのグループに分かれそれぞれお茶を飲みながら、共に笑ったり涙したり、気持ちを語りあうひと時を過ごしました。帰りにメールアドレスを交換される様子に、元気の輪が広がっていくことを願うばかりです。

会の開催に不可欠な講師探しや司会進行など、いつも快くご協力くださる親の会の方々、助成に加え今回配布したリーフレットの製本をしてくださった当センター後援会のみなさまに、この場を借りて心より感謝申し上げます。

12月に向けて子育てパパの体験談を企画中です。是非ご参加ください、お待ちしております。



地域最前線

地域の福祉を支える団体からのメッセージです



社会福祉法人すみれ福祉会 花の郷

施設長 田部井眞

花の郷は、町田市大蔵町の鶴見川沿いにある生活介護の事業所です。経営する法人は、社会福祉法人すみれ福祉会で花の郷の他に、町田市下小山田町に同じく生活介護の事業所としてニーズセンター花の家を運営しています。設立当初から重度重複障害のご利用者を中心に受入れをしてきています。

花の郷は、重度重複のご利用者、特に医療的ケアを必要としている方を中心に受入れをしています。定員は60名で、現在は58名のご利用者が通所しています。9名(15.5%)のご利用者が医療的ケアを必要としています。安心安全な施設、豊かな時間の提供、高齢化対応を方針として運営をしています。法人として医療的ケア要領を制定し、生活支援に必要な医療的ケア、口鼻腔の吸引、注入、導尿や酸素ポンベの交換などを看護師が中心になり行っています。支援職員(特例実施者)が口鼻腔吸引、酸素ポンベの交換を行っています。常時吸引が必要なご利用者の送迎も看護師に加えて特例実施者の添乗により通所を確保する体制をとっています。

提供しているプログラムは、できる限りご利用者の状態像に合った多様な内容を目指しています。障害の重い方に合わせた、スノーブレン・ムーブメント、体の取り組み、労働をニーズとした方にはクッキーの生産(人用とペット用を生産)・野菜や草花の生産、草木染め製品を生産販売しています。今年度からは、島田療育センターから医師の派遣に加えて、心理・PTの先生を派遣していただきご利用者支援の充実を図っています。

重度重複障害のご利用者を受け入れていくために、医療体制、形態食の提供や送迎体制を強化していくことが重要となります。さらに、どんなに障害が重くとも、地域社会の中で生活を続けていくことができるように、必要な支援を法人として、施設として充実していくことが求められていると感じています。

↓ 花の郷外観



スノーブレン →





わいわい祭り 2010
 ~みつけよう  みんなのハピネス~

わいわい祭り副実行委員長(医療相談課) 谷合由記子



平成22年9月11日(土)島田療育センターわいわい祭り2010が開催されました。

昨年は新型インフルエンザの影響で地域の方々との交流の場を持たなかったわいわい祭りですが、今年は昨年出来なかった分も楽しんで頂こうと、実行委員や利用者様のお祭り準備にはいつも以上に熱が入っていた様に思います。そして、そんな気持ちが届いたのか、心配されていた台風も過ぎ去り晴天でお祭り当日を迎える事が出来ました。

太陽が少し傾きだした16時、わいわい祭り2010が開場となりました。今年の司会者は浴衣がとでも似合っていた歯科医師のペア！明るく元気な司会にあわせて次々と模擬店が開店します。入所利用者様プロデュースのオリジナルスイーツや守る会様による綿菓子やゲームそして冷たいソフトクリーム、中央冷凍様による生ジュースやかき氷・カップ入りスノー、後援会様によるプリンやゼリー・水ようかん、そしてあまあいスイカとバナナなど、暑い日に最適な食べ物やお祭りらしいゲームが並びます。また、今年は「なかよし広場」をサブ会場とし、似顔絵やゲームなどを楽しんで頂けるようにしました。屋内の理学療法室ではピコピコルーム主催の「お絵描き写真館」、個別訓練室ではボディショップ様によるハンドマッサージが行われ、外来スペースではほっとステーションによるカフェをオープンしました。どの会場も沢山の方にお越し頂きとても賑わっていました。

16時半にはメイン会場となるグラウンドの舞台スペースにて実行委員長(木実谷院長)の挨拶が始まり、メインイベントとなる「日本民族芸能創作グループ」の皆様による伝統舞踊の披露や職員有志による「嵐」のダンスパフォーマンスなどが行われてとても盛り上がりました。

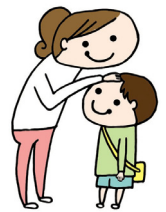
そして、18時半より毎年恒例となった「^{ふうこ}風鼓」の皆様による和太鼓と打ち上げ花火の迫力あるコラボレーションをお楽しみいただきました。今年のナイアガラ花火は見事成功！最後は島田花火師達へ大きな拍手が送られました。

沢山の方々にご協力頂き、今年も無事わいわい祭りを開催する事が出来ました。わいわい祭りに関わって下さった皆様、本当にありがとうございました。



Q

発音がはっきりせず、言ってることがお友達に伝わりません。
 どうしたらいいのでしょうか？



A

幼児期は言葉が急速に身に付く時期ですが、大人と同じ発音になるのは小学校入学前後が目処です。それまでは特に一人一人の発達のペースも大きく違うので、個人差を十分に考慮し、見守る必要があります。

子どもの言葉はゆっくり最後まで聞き、間違った発音でも言い直させず、正しい発音のお手本を示してあげることが大切です。お友達とのやり取りで困っている時は、そばにいる大人が「〇〇ちゃんが△△△って言ってるよ。」と子ども同士の橋渡しをしてあげてください。また、個々のお子さんの発達ペースや得意—不得意の違いを周囲の大人が温かく見守っている態度が、子ども同士の仲間の認め合いにもいい影響を及ぼします。

お家でできる取り組みとしては、紙や軽いおもちゃをフーツと吹いて息で動かす、ストローでお水をブクブクする、アイススティックをくわえて口の周りの筋肉の緊張を高める、口の周りに生クリーム等を付けて舌で舐めるなど、息を強く吐くこと、口の周りを動かすこと、舌を動かすことなどをゲーム感覚で練習するといいですね。話す時に身振りも使って伝えること、運動遊びで思いきり笑い、大きな笑い声を出すこともやってみてください。

発音の不明瞭さと共に運動や手の使い方が不器用かな、言葉の理解力もゆっくりかな、と感じる場合や5歳過ぎで不明瞭さが心配な場合には地域の健康センター・保健センターの子育て相談や療育センターなどにお電話・相談されることをお勧めします。(心理判定員 鈴木清子)

ぜひ

お越しいただき 今後のイベント案内

家族支援プロジェクト

パパの子育て体験談を聴く会 & 交流会

<日時> 12月5日(日曜日) 2時~5時

<場所> : 島田療育センター 厚生棟

<参加費> : ひと家族1000円

(お茶、お菓子、資料代)

<流れ>

2時~3時 15分 子育てパパ(3人)の体験談と質疑応答
休憩(15分)

3時 30分~5時 小グループに分かれ交流会 自由解散

※託児サービスはありませんので、ご了承ください

※交流会の時には名札をご用意させていただきますので、ご了承下さい。

<対象者>

発達障害、肢体不自由、または発達に心配のある就学前から小学校6年生までのお子さんをお持ちの保護者の方

<定員>30名程度 定員になり次第、申し込みを締め切ります。

パパが子どもたちに向き合った時、
どんな関係が広がるのか、その可能性は未知数です。子育て真っ最中の
パパはもちろん、これからのパパ
も、どうぞ奮ってご参加ください!



お申込み用紙に必要事項を記入の上FAX又は総合案内へご提出下さい。

定員に達しお断りさせて頂く際のみ、折り返しご連絡を差し上げます。

島田療育センター 支援部地域連携情報室

Fax: 042-374-2089

<http://www.shimada-ryouiku.or.jp> (ホームページからダウンロード可能です)

地域療育等支援事業のご案内

①外来療育等支援事業(療育相談)

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

①窓口: 医療相談課 TEL042-374-2638(直)

②施設支援一般指導事業

発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象に、ご相談に応じます。

③訪問療育等支援事業

地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

②③窓口: 地域連携情報室

TEL042-374-2101(直)

費用は…①②③とも無料です。

平成22年度

公開シンポジウム

「障害のコミュニケーション支援について(仮)」

[日時]平成23年2月6日(日) 午後

[場所]未定

[基調講演]中邑賢龍(なかむら けんりゅう)氏

東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

※順次、HPに掲載予定

これらの催しのお問い合わせは…

地域連携情報室へどうぞ



TEL:042-374-2101 (問い合わせ時間 平日9:00~17:45)

FAX:042-374-2089

※E-mail とURLは下記をご参照ください。

心理相談室第7回講演会

日にち: 3月27日(日)

場所: 島田療育センター厚生棟

講師: 国立国際医療研究センター国府台病院

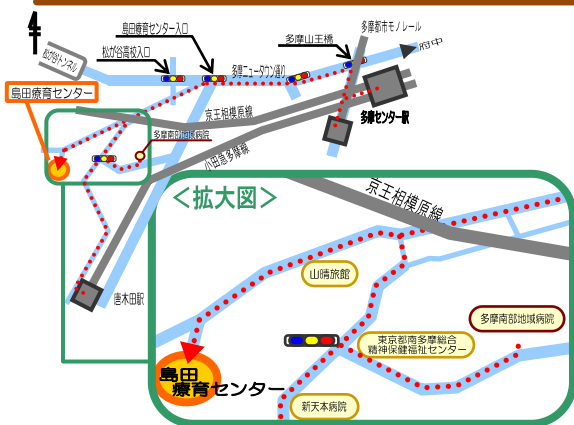
精神科部門診療部長 齊藤万比古先生

※順次、HPに掲載予定

編集後記

暑い夏もようやく過ぎ、秋めいてきました。11月15日は七五三ですね。子どもの生存率が低かった時代、乳幼児の生存を祝う節目として定着したそうです。医療技術も発達して、長寿大国となった日本ですが、子どもの健やかな成長を願う気持ちは今も昔も変わらないのではないのでしょうか。ところで、「七五三さん」という姓の方がいらっしゃるそうです。何とお読みするか、ご存知ですか?ヒント:七五三縄。”しめ”さんだそうです…!(山崎)

編集: 社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部 地域連携情報室
住所: 〒206-0036 東京都多摩市中沢 1-31-1
電話: 042-374-2071(代表)
E-mail: info-room@shimada-ryouiku.or.jp
URL: <http://www.shimada-ryouiku.or.jp>



<徒歩>
多摩センター駅下車
→約20分



<バス>
多摩センター駅
バスターミナル12番乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
→下車 徒歩5分

